

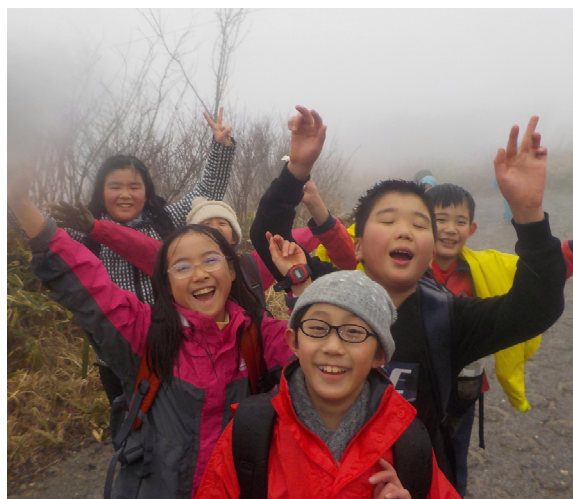
オプションプログラム1 (難易度1～)

しおひがりにでかけよう!

4月のオプションプログラムは、しおひがり! 「あったー!!」「これ、食べられる??」大きな、広い広い自然の干潟に、子どもたちの声がこだまします。そのそばで「わたし、まだとれてへん」と悲しげな顔もあります。子どもたちの気持ちと裏腹に、自然はうまく子どもたちの都合に合わせてはくれません。でも、大丈夫まだまだはじまったばかり! スタッフと一緒に、最初のひとつ、2つが獲れるまでいっしょにやってみます。あせる気持ちをおさえつつ、あきらめないで、ねばって、自分で最初のひとつが獲れると、あら不思議2つめは、何だかすぐに貝のいる感触がわかります。スタッフがそっと離れて見守っていると「なあなあ、これなんて言う貝? 食べられる??」と元気な顔でやってきます。とてもとても、小さなシオフキ貝(食べられます)ですが、そのメンバーにとっては、自分で見つけたとても大事な貝。その後はどんどん進化し、袋一杯、自分で獲った貝を持ち帰ったのでした。



▲自然の中での挑戦は、最初の頃は大変だけれども、そこであきらめないでやりきってみると、日頃よりクワクワドキドキ心が揺れる瞬間が生まれます。なにも、ハードな活動だけが、子ども時代の冒険ではありません。毎回、子どもたちの尊い「ほうなん」挑戦があります。



ミドルコース8「ロッコウサン・チャレンジ」～頂上は雲の中! がんばれたあ!～



キッズコース8「ファイナル・パーティー」～お買い物クッキングで持ち寄りパーティー! 自分達のアイデアを現実に具現化!～



リトルコース8「おかしパーティー」～自分たちの力で、おかしの完成! 年長さん、一年生だって、ヤババデキル!!～

あどベンデキタ?!

新しい芽吹き季節に、みなさま、どうぞお体ご自愛下さい。

忘れてきた方や、濡れてしまった方へ貸し出しするため、ご家庭で不要となった活動衣類や着替え用衣類を、寄付していただいたご家庭のみならず、本当にありがとうございました。活動で、活用させて頂きます。また、パンフレット設置にも、数多くご協力いただき、誠にありがとうございました。みなさまの、温かいお心に、本当に感激しましたとともに、大変感謝を致しました。今度は私どもがご協力できることがあれば、ぜひご相談下さい。(事務局)



Adventure Kids School

子どものための自然体験学校「アドベンチャーキッズスクール」活動報告レポート

Report "adven Dekita?!" -アドベンデキタ?!

adven Dekita



チャレンジ隊7「42kmチャレンジハイク!」
～35km地点付近。朝日がでて、再び元気に!～

2019.Apr

チャレンジ隊フ 「42kmチャレンジハイク！」

チャレンジ隊最終回は、42kmのオーバーナイトハイクに全員で挑戦しました。歩くメンバー15名、それを支えるバックアップのメンバーは、昨年度完歩しているチャレンジ隊2年目の3名のメンバー。全員で、全員が無事安全に、ゴールに立つことが目標。夕方16:00前に出発し、25kmまでは順調。なにせ、ジュニア時代に26.5km歩いているのですからところが、25km～30km区間。時刻も夜中、足も痛い、眠い。ちょっとした休憩で立ったまま眠ってしまうほど。25kmまでは11時間、25km～30kmは5kmで5時間。この区間の壮絶さがわかります。30km到着時には夜も明け、元気復活「太陽ってすごい!」。その後は、足の痛いメンバーを、自分もしんどいのにはマッサージをしてあげたり、眠っているメンバーを互いに起こしあいながら、まさに、一歩、一歩進み、バックアップの5km区間ごとの援護、言葉ではない励ましを受けながら、23時間45分後、全員が無事怪我無くゴールすることができました。さあ、寝ようと海岸に横たわった瞬間、雨が降ってきて眠れず、「神様のいじわるー!」と言いながらも、本当に出し尽くしヘトヘトのはずが、軽やかな心でみんなでバスにあわてて移動し、バスでようやく一息つき、熟睡のみんなでした。バックアップも子ども、しかも42km、そして、全員で、全員が無事安全に、ゴールに立つ真剣勝負。掛け値なしの挑戦に、子どもたちの、がんばれた自分、挑戦できた自分を、自分で賞賛してあげられる瞬間があり、自分をいいな、ほめてあげたい気持ちと、自分の持つ力、可能性に気づきかけのたくさんあった活動でした。1年間の活動、ご支援ご協力誠にありがとうございました。



▲42kmというのは、やはりとても長い距離、歩いた時間、23時間45分はとてつもなく長い時間、全員無事、完歩、子ども達、こんなにかんばる力、頑張れる力を持っているんです。バックアップ、23時45分仲間のために奉仕続けられるんです。子ども達の持つ可能性は、尊く、やはりすごいものでした。完歩おめでとう!

◎2018年度通年全コースの皆様、1年間、誠にありがとうございました。紙面の都合上、掲載できない活動がありますが、ホームページで活動報告していますので、ご覧下さい。
PC版 <http://adventure.kids.coocan.jp/18tuunenn/18tuunenn.htm>



▲食料採りが無人島生活ではありません。毎日の生活の中で生きるためにやらなくてはいけませんが、どんなにきつと見えてくる。子ども達の生活リズムも、無駄がなくなり、シンプルになっていきます。いきるために必要なこと、実は、子ども同士遊ぶこと、じゃれあうこと、肌をよせあうこと。同じ時間を長く過ごすこと、そこで起こっている事を、自分達で解決していこうと動き出す事、もう、ここでは書ききれないくらい大切な事を、凝縮した時間の中で経験していた子ども達でした。

春休み特別プログラム2「沖縄無人島キャンプ！」

その年の自然の状況、天候によって、全く違う経験が待っているこのキャンプ。今年は、とにかく寒さとの戦い、の無人島生活4日間でした。今年は、現地調達+α(米と基本調味料、少しの保存食を準備し、あとは、現地調達したもので4日間をすごします)で無人島生活を乗り切る作戦。寒さのため、海に長くいる事ができず、釣果も全く無く…。頼みの綱の海草も、今年是不作。最初はあまり現実味がなかった子ども達も、2日目の昼過ぎには、これはまずいと感じます。3日目、天気は雨。雲の切れ間をみて、食料探しにでかけた子ども達。ひとり、またひとりと海からあがり、ダウン。残った二人のメンバーが、海に潜って、貝をとり、もずくを摘んでベースに戻ってきました。他の子ども達は二人を待つ間、米をたき、みそ汁を作り、スバム缶を焼いて、帰りを待ちます。相当おなかもすいているだろうし、すぐに食べてしまうのではないかと思います。思いながら見ていると(ごめんね、みんな!)何度も温めなおしたり、焼き直したりしています。どうやら冷えた体の二人の帰りにあわせて、暖かくなるように、考えている様子。驚きました。こんな優しい心遣い。夜になれば真っ暗闇、トイレもなければ、水道ももちろんない。そして、食料もなくて、極限状態の中で、この心遣い。大人であっても、一体どれくらいの方が、こんな心遣いができるだろう…と考えてしまいます。そんな今年のメンバーたちの沖縄無人島キャンプ。食料がとれない時は、仕方がない、と漂流物で筏を作ったり、満点の星空の下、ずーっと夜の夜長をおしゃべりしながら楽しんだり、寂しく泣いてしまったメンバーに「俺が母ちゃんになってやる」と、男気あるセリフを有言実行したり。涙あり、大笑いありの無人島生活でした。

春休み特別プログラム1「春スキーチャレンジ!!」(第1期、第2期)

今年の春スキーは、新潟の妙高高原スキー場に行ってきました。日本列島雪不足はどこへやら。2メートル近くの雪がまだ積もっており、春の陽気の中で、汗をかくほどの春スキーを楽しむことができた2日間でした。どちらの期も、スキーを何度もしたことがあるメンバーと、まだスキーに乗って3回目の挑戦のメンバーでしたが、全員、最後は初日の滑りとは別人のような滑りとなりました。冬のばじめてのスキーからはじまり、春スキーで、スキーを完全にマスターした子ども達。来年は、もっともっと沢山滑り込んで、森の中を探検にでかけたり、いろんな斜面を自在に滑り降りていきたいと考えております。また、来シーズン、みんなの挑戦を待ってます!(スキースタッフ一同)



▲心と体と技術が一つになったとき、子どもは、飛躍的に上達します。すると、心がさらに上を目指し、気持ちがあがると、体も動き、そして、そこに少しの目標(技術)が加わると、それを達成していく力が働く。そうすると、心技体の車輪が回り始めて…。どんどん続いていくのでした。



2019年度 通年コース、お申し込み受付中です!!

通年コースは、学年、体力、運動能力、経験を考慮した5コースを設定しております。いずれも、年間を通しての教育効果を考えたプログラムです。

<日帰り型>

リトルコース：年長～1年生 (日帰り8回)

キッズコース 小学2年生以上 (日帰り6回、1泊2日2回)

ミドルコース 小学3年生以上 (日帰り5回、1泊2日3回)

<宿泊型>

ジュニアコース 通年コース1機以上の3年生+小学4年生以上 (1泊2日5回、日帰り3回)

チャレンジ隊 ジュニアコースを修了した小学4年生以上 (2泊3日1回、1泊2日5回、日帰り1回)

みなさまのご参加、心よりお待ちしております。